
唐突ファジー

アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

唐突ファジー

【Nコード】

N8482J

【作者名】

アキ

【あらすじ】

本音を隠す彼女とそれを読み取る俺

「私と仕事どっちが大事なの？」

「は？俺まだ学生だけど。あ、部活のこと？それともバイトのこと？」

彼女の突然の質問に驚いた。

あれ、俺仕事とかしてないよな？

「違うわ。どっちが大事かなんて、とんだ愚問よね」

彼女はソファアームに座って手元の雑誌から目をそらし、床に座った俺を見下ろした。

「ちょっと意味がわからない」

精一杯考えても彼女の考えることがわからなくて、手をあげて降参のポーズ。

「だいたい彼女が大事だから仕事も頑張るんだと思うの。将来的に彼女を養うのにも、お金がいるしね」

「まあ……そうだな」

女が言うことか？それは。

だいたいそういうのは、気持ちの問題じゃないのか。
わかってはいるけど……みたいなの。

「ね？だから寂しいからと言ってそんなこと聞くのは愚問よ」

わかる？と首をかしげながら雑誌を放り投げ、俺の足を蹴った。
なるほど、そういうことか。

不器用な彼女の言葉の裏に隠れた本音。

「……それはもっと構ってほしいってことでもいいんだよな」

「愚問ね」

「はいはい、わかったよ。おいで」

手を広げると、彼女はおとなしく俺の足の間に収まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8482j/>

唐突ファジー

2010年10月28日04時01分発行